

## 1 学校教育目標

- ・自ら学び目標をもって努力しよう
- ・互いに尊重し助け合おう
- ・困難に耐え心と体を鍛えよう

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力が身に付く学校</li> <li>・思いやり、自己肯定感、自己有用感が育つ学校</li> <li>・心身ともに健やかな生徒を育てる学校</li> <li>・生徒、保護者、地域から信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標をもち、自ら進んで学習に取り組む生徒</li> <li>・礼儀や思いやりを大切にし、規律ある行動ができる生徒</li> <li>・心身ともに健康で、何事にも一生懸命に取り組む生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人を理解し、寄り添い、最後まで諦めない教師</li> <li>・授業改善に向け、日々、研究・実践に努める教師</li> <li>・教育公務員としての自覚と誇りをもって職務に励む教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状】

#### ○学校について

〔よさ〕 日々の教育活動が、落ち着いた雰囲気の中で継続して行われている。

〔課題〕 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」特に「学びに向かう力、人間力等」をさらに高める教育活動を意図的・計画的に推進する。

#### ○生徒について

〔よさ〕 生徒の大多数が、自らの所属する集団をより良い集団にするために考え、行動しようとしている。

〔課題〕 学習や諸活動において、現状に満足せずより高い目標をもって自ら挑戦する姿勢・態度を養う。

#### ○教師について

〔よさ〕 自他の授業改善に向け努力するとともに、学校全体で協力して課題解決しようとする集団である。

〔課題〕 自校やその他の教育課題を明確にし、授業力向上・生活指導・教育相談を中心とした研鑽を組織的に共通実践していく体制を構築する。

#### ○保護者・地域について

〔よさ〕 保護者・地域の方は、共に本校の卒業生が多く、学校の教育活動を理解し協力的である。

〔課題〕 生徒のよさ・課題などについて共有し、不測の事態にも持続可能できることを考え、保護者・地域と連携して育てていく体制を見直し進める。

### 【前年度の成果と課題】

〔成果〕 「授業が分かる」「授業が楽しい」「勉強は大切だ」と感じている生徒が前年度並み、又は増加した。

不登校生徒について、組織的に対応し、関係諸機関との連携を推進することができた。

〔課題〕 学んだ事柄を使って、論理的に物事を考え、表現できる力を身に付けさせる。

不登校生徒について、校内支援委員会を軸に関係諸機関とも連携し、多様化する個々の状況に合わせた支援体制をさらに充実させる。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生徒の健全育成	○	○	○	○	○
3	関係小学校や家庭・地域との連携	○	○	○	○	○

## 5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
主体的に学習に取り組む生徒の育成		令和7年度区調査通過率65% 年度末到達度確認テスト正答率60%		区調査通過率67.2% 年度末到達度確認テスト正答率58.7%（2月末実施予定）		区調査では、2.2%上回った。引き続き基礎基本を定着させていく。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	「勉強が好き」増加作戦	全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善（授業力向上）</li> <li>①授業観察実施〔年3回〕（管理職の観察（指導助言））</li> <li>②年次研修 授業観察実施〔年3回〕（管理職・指導教員の観察（指導助言））</li> <li>③校内研究授業〔年1回〕選出教員による研究授業（管理職・全教員の観察）</li> <li>「六中授業観察シート」活用</li> <li>④教科指導専門員・学力定着指導員との指導助言の方向性の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、アンケート</li> <li>単元テスト等による理解度の確認</li> <li>「六中授業観察シート」による確認、協議</li> <li>教科指導専門員の報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が分かる」85%以上</li> <li>「授業が楽しい」80%以上</li> <li>「授業で振り返りをしている」70%以上</li> <li>「分かりやすい説明を心がけている」60%以上</li> </ul>	生徒アンケート結果 「授業が分かる」82.1% ・「授業が楽しい」71.6% ・「授業で振り返りをしている」57.9% ・「分かりやすい説明を心がけている」67.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>4項目中1項目において目標を達成することができたが、全項目昨年よりも減少した値となった。</li> <li>「勉強は大切である」91.2%の肯定的回答を生かすための授業改善に引き続き取り組んでいく。</li> </ul>	○

2 継続	家庭学習の 充実	1, 2年	通年	主体的な家庭学習の定着 ①「家庭学習ガイドブック」の活用による家庭学習の取り組み方の指導、保護者会等での家庭への啓発 ②定期考査前の「学習計画表」の作成 ③定期的・継続的な指導	・生徒アンケート ・教科別ノート、ワーク等の点検 ・デイリーライフ(生活記録)での確認 ・個別指導	・「家庭学習での勉強内容、方法がわかる」70%以上 ・家庭学習1日1時間以上50%以上 ・提出物90%以上	生徒アンケート結果 「家庭学習での勉強内容、方法がわかる」56.8% ・家庭学習1日1時間以上35% ・「宿題をやり遂げている」80.7%	残念ながら目標を達成することができなかった。今後は、様々な教育活動の場面において、主体的に学習に取り組む意欲の醸成を図っていく。	△
3 継続	放課後補充 教室	全生徒、 各教科の つまずき のある生 徒及び希 望生徒	週3回	未習熟な学習内容の解消 ①必要な学習を行う自学自習(AIドリル等の活用) ②個別指導でのつまずきの解消(AIドリル等の活用)	・区学力調査を活用した到達度確認テスト ・定期テスト	・年度末に行う到達度確認テストでの対象生徒の正答率アップ	生徒アンケート結果 「コンテスト前の朝学習や放課後補充教室での学習は役立っている」77% ・年間計画どおり、円滑に実施することができた。	生徒アンケートにおいて、肯定的回答を得ることができた。引き続き、丁寧な学習指導を実施していく。	◎
4 継続	I C T の活 用	全教科及 び5教科	通年	分かる授業を行い、学習ソフトの効果的活用 ①デジタル教科書(生徒用)の活用 ②Chromebookの活用 ③AIドリルの活用	授業観察	・各教員が学習の単元で2回以上は活用	・教科の特性や授業内容により、活用頻度には差はあるが、活用することができていた。	授業改善の視点からICTを活用した授業について、今後も継続して実施していく。	○
5 継続	朝読書 朝学習	全生徒	通年	1日の落ち着いたスタート ①読書(通年) ②スペリングコンテスト(国・数・英)2週間前対策学習プリント、AIドリルの活用 ③実施時期、内容は年間計画に基づく。	・読書記録の実施 ・朝学習プリントは回収 ・AIドリルは結果確認	・全員が朝読書、朝学習に取り組む	生徒アンケート結果 「コンテスト前の朝学習や放課後補充教室での学習は役立っている」77% ・「毎月の読書量」1冊以上18.1%	・毎月の読書量については、全体の値としてはまだ低い位置ではあるが、昨年度から取り組んでいる朝読書の成果が出てきている。	○

6 継続	サマースクール・中1勉強合宿(通所型)の充実	全生徒	夏季休業日 6日間	①基礎学力の定着及び学習の習慣化 ②連携小学校教員の協力による算数・数学補習の実施	・事前テスト ・学力テスト	・事後テスト	・通所型 20%増加	中1勉強合宿(通所型)においては、連携小学校の先生方の協力も得て、実施することができた。	◎
---------	------------------------	-----	--------------	--	------------------	--------	------------	--	---

重点的な取組事項－2		生徒の健全育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が秩序と主体性をもって行動できる学校づくり		生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 80%以上	関連項目での肯定的回答は80%以上である。	秩序ある学校生活、主体性を伸ばす活動ができています。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の徹底	TPOに合わせた言動、チャイム着席、あいさつ等ができる落ち着いた学校の実現	①生徒の内発的な動機を大切にし、主体的に校内の環境を整える力を育成する。 ②指導者の考え方から、指導の目的、ねらいを明確化する。	生徒意識調査結果 96% 授業を中心に、学校全体として落ち着いた生活ができた。	・あいさつのできる学校という意識が全校生徒に浸透している。	◎
主体的に考え、行動できる生徒の育成	生徒アンケートにおいて、生徒の主体性、達成感に関する項目 80%以上	①自治的な生徒会活動等を活性化する。 ②学校・学年行事を育成の機会とする。 ③取り組みを可視化する。	生徒アンケート結果 「今の学校をより良い学校にした い」78.3% 「自分の役割を考え、協力して行動しようとしている」 80.8%	・生徒会が主体となって、生徒の自治活動が活発に行えるよう、引き続き取り組んでいく。	○

いじめ、不登校への対策	・いじめの根絶を目指すと共に、関係諸機関との連携を図ることで、不登校生徒への対応の充実	①SNS 学校ルールの徹底、セーフティ教室など、あらゆる機会に人権を意識した言動を校内で共通実践とする。 ②校内支援委員会の充実、行内別室等、関係諸機関と組織的な連携をする。 ③WEBQU を効果的に活用する。	SNS 学校ルールの徹底およびセーフティ教室において、SNS 使い方、インターネットによる人権侵害についての講演を実施した。 週1回の校内支援委員会においては、個々のケースに応じた対策を立て、SCをはじめ関係機関と連携した支援を進めることができた。	保護者アンケート 「学校は、人への思いやり、規範意識を育てる教育に取り組んでいるにおいて、93.1%の方々から肯定的回答をいただくことができた。 WEBQU においては、校内研修会として、実際の活用方法について学び、生徒支援に役立てることができた	◎
道徳教育の推進	各学年で検討した共通の指導案での道徳授業を年2回実施	①道徳教育推進教師を中心とした組織体制をもとに、各学年で指導案を検討し、「考え、議論する道徳」を実施する。 ②道徳授業地区公開講座時の保護者、地域の方の参加を促し、道徳教育の意識を高める。	道徳地区公開講座においては、各学年教員と参加保護者との意見交換会を実施し、意見などの共有ができ、充実できた。	一人一人の考えなどを伝え、議論を深める活動をさらに取り入れ、教育活動全体をとおして、道徳教育を活性化する。	○

<b>重点的な取組事項－3</b>		関係小学校や家庭・地域との連携			
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
保護者・地域から信頼される学校づくり	学校評価アンケートにおける関連項目の肯定的回答 80%以上	関連項目での肯定的回答はすべて90%以上である。	教員、保護者、地域が一緒になって、子供を育てていくという日頃からの情報発信や情報共有が結果につながったと考える。	◎	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携	小学校との合同研修会を年7回実施	・連携校で共通した研究テーマを掲げ、教科別又は柔軟な枠組みで分科会を4つ設定し、授業改善、健全育成に役立つ内容の研修を行う。	幹事校として、予定通り実施することができた。分科会ごとに講師を招聘し、共に学ぶことができた。また、各部会においては、4月と12月の区意識調査結果の変容について考察し分析した。	連携小学校2校との共通実践事項を、より具体化させ、9年間の学びに一貫性をもたせていく。	◎
家庭との連携、協力	学校評価アンケートにおける関連項目で肯定的回答80%以上	学校便り、各種便りやホームページによる学校の情報発信、保護者とのきめ細かい連絡をとおして、保護者と教員の信頼関係を強固にする。	保護者アンケート結果 学校経営に関する情報発信 97.4%、学校行事の充実 95.3% 保護者が教職員に気軽に相談できる 93.2%	各種便りやホームページ、H&Sを利用し、こまめに情報発信した。 教育相談に対する教員の意識を高め、安心して相談できる体制をさらに構築していく。	◎
地域との連携、協力	地域行事に年1回以上参加する生徒、教員が6割以上	・あいさつ運動、花いっぱい運動、I組マルシェ、ペンキ塗り、荒川ウォーク、住区まつりなどの参加を呼びかける。 ・地域の方への情報の発信、学校公開をとおして、教育活動への理解を深める。 ・持続可能に実施できるものを協力しながら考えていく。	保護者アンケート 学校は保護者・地域などと協力し、教育活動に取り組んでいる。92.7% あいさつ運動を地域、保護者の方に協力を得て、土曜授業日に実施することができた。 昨年からはじめた「ペンキ塗り活動」については、今年度は「校舎まわりの外壁のペンキ塗り」を実施、生徒、保護者、地域の方々と一緒に実施することができた。	土曜授業日のあいさつ運動、ペンキ塗り活動は引き続き継続していく。	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項1 学力向上

##### (成果)

【全校】全ての教科の平均正答率が、昨年度よりも上回った。1年生国語、2年生国語・数学・英語、3年生数学で全国平均を上回り、特に3年生の数学は、全国平均を5ポイント上回った。

【国語】「言葉・情報・言語文化」の領域で区平均とほぼ同じ結果となった。2年生は、通過率が昨年度よりも17.7ポイント上昇した。

【数学】「データの活用」の領域で区平均を大幅に上回り、他の領域でも区平均とほぼ同じ結果となった。通過率では、全国平均と比較すると2年生は15.3ポイント、3年生は10.5ポイント上回った。

【英語】「書くこと」「聞くこと」の領域で区平均とほぼ同じ結果となった。通過率では、全国平均と比較すると2年生は4.2ポイント、3年生は1.4ポイント上回った。

【意識調査】令和6年度より、本校では「朝読書」に取り組んだ。「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目では、肯定的回答が昨年度は28.4%だったものの今年度は30.2%へと1.8ポイント上昇し、区平均を上回った。

#### （課題）

○足立スタンダードに基づいた主体的・対話的で深い学びを実現し、特に「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせることに重点を置き、伝える力の育成に力を入れていく。

○全ての授業で、一人一人の学習状況を把握し個に応じた指導を実践していく。

○苦手意識の強い教科や、基礎学力の定着率の低い分野や単元では、反復学習を徹底する。漢字・計算・スペリングの各コンテストを実施し、知識の定着を図る。

○ICT機器を思考のツールとし、効果的に活用する。Chromebookの活用により、深い学びの実現を進める。また、AIドリル(Qubena)を使った学習を5教科で積極的に行っていく。

○放課後補充教室では、全生徒を対象に教職員が全校体制で実施している。また、家庭学習の在り方を検討し、より効果的な学習となるよう工夫して取り組んでいく。

○「本に触れる機会」を増やし、読書活動を通じて語彙力や知識を増やし、読み解く力や文章力の向上させるために、朝読書をコンテスト期間を除いて通年で実施しており、今後も継続していく。

### 重点的な取組項目2 生徒の健全育成

生徒意識調査の結果、授業を中心に学校全体として落ち着いた生活ができているという肯定的回答をしている生徒が96%と高い結果であった。

今の学校をよりよくしたい、自分の役割を考え協力して行動しようとしているという肯定的回答が80%近く、様々な活動において生徒主体の活動を取り入れ、自信をもって活動できるよう、日頃からの取組を丁寧におこなっていく。

日頃から授業を中心として落ち着いた環境のもと、あいさつのできる学校という意識が全校生徒に浸透している

特別支援校内委員会を定期的に開催することで、情報共有をはじめ支援の方策や方向性を組織として話しあえる風土ができてきた。

校内研修で、WEBQUや特別支援教室について理解を深め、協働できる体制づくりが浸透してきた。

### 重点的な取組項目3 関係小学校や保護者・地域との連携

学校評価アンケートにおける関連項目での肯定的回答は、すべて90%以上であった。日頃から、学校、保護者、地域が一緒になって子供を育てていくという視点を大切にしており、そのことは、保護者が教職員に気軽に相談できるという設問項目において93.2%という高い値をいただいていることにもつながっていると考えられる。引き続き、寄り添い、共に成長を喜び合える学校づくりを推進していく。

関係小学校との連携においては、今年度、幹事校として年7回実施し、分科会ごとに講師を招請し、共に学ぶことができた。連携小学校2校との共通実践事項をより具体化させ、9年間の学びに一貫性をもたせていく

地域との連携、協力においては、あいさつ運動や、ペンキ塗り活動、荒川ウォークを実施し、生徒、保護者、地域の方々と一緒に活動をおこなった。

## **(2) 保護者や地域へのメッセージ**

日頃より、本校の教育活動に対し、温かい御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

生徒たちは日々の学校生活の中で落ち着いて学びに向かい、何事にも一生懸命に取り組んでいます。運動会や文化祭といった学校行事では、最後まであきらめずに挑戦する姿を大いに発揮し、私たちに大きな感動を与えてくれました。中学校の3年間は、生徒たちが夢や希望に向かって歩み始める重要な「準備期間」であり、人生の大きなスタートラインに立つ時期です。心身が大きく成長する一方で、不安や戸惑いも生まれます。一人一人の歩みを支え、自分の進むべき道を見つける力を育む場でありたいと考えています。

保護者・地域の皆様とともに、子供たち一人一人の成長を温かく見守り、共に喜び合える学校づくりを進めてまいります。今後とも御支援・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## **(3) その他（学校教育活動全般について）**

「勉強は大切である」「もっとわかるようになりたい」という思いをもつ生徒が多くみられ、この1年授業改善に積極的に取り組んできました。ICT機器の活用や学び合い・教え合いを取り入れた授業づくりを進め、一人一人を大切にする“学びのユニバーサルデザイン”を推進していきます。そして、どの子も尊重され、安心して自分らしく学べる学校づくり、人権教育を基盤とした学校教育におけるユニバーサルデザインに取り組んでいきます。互いの違いを認め合い、相手の立場に立って考える力や、他者を思いやる豊かな感性（人権感覚）を育てることは、これからの社会を生きる上で欠かせない大切な力です。今後も様々な教育活動を通して、物事を深く捉える思考力や、先を見通す力、そして予測の難しい時代をしなやかに生き抜くレジリエンスを育ててまいります。